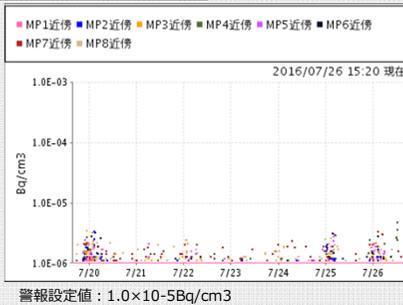
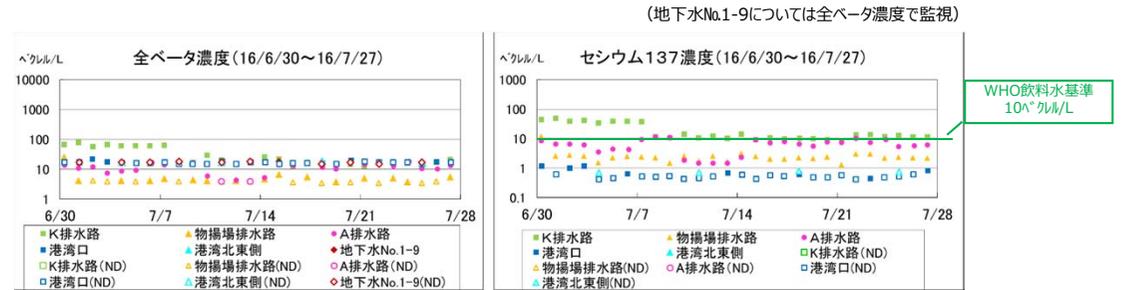


- 前回(6月29日)以降のデータ公開数は約8,900件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,900件を公開しました。
- 敷地境界付近8箇所でダストモニタのリアルタイムデータを公開開始
発電所敷地境界付近のダストの計測状況をタイムリーにお示しすることを目的に、敷地境界付近8箇所に配置したダストモニタのリアルタイムデータの公開を、7月12日より当社HPで開始しました。なお、7月3日にモニタリングポストNo.8(MP-8)付近に設置したダストモニタにおいて警報が発生しましたが、天然核種を検出したものと判断いたしました。今後もしっかりと監視していくとともに異常の際は速やかにお知らせします。
- 港湾内海水の放射性物質濃度の傾向
昨年10月、海側遮水壁閉合作業の完了後、1～4号開き内および港湾内海水の放射性物質濃度は、降雨時には上昇が見られるものの、低減傾向にあります。引き続き港湾内の水質を監視していきます。



A 水 (海水、排水路、地下水等)

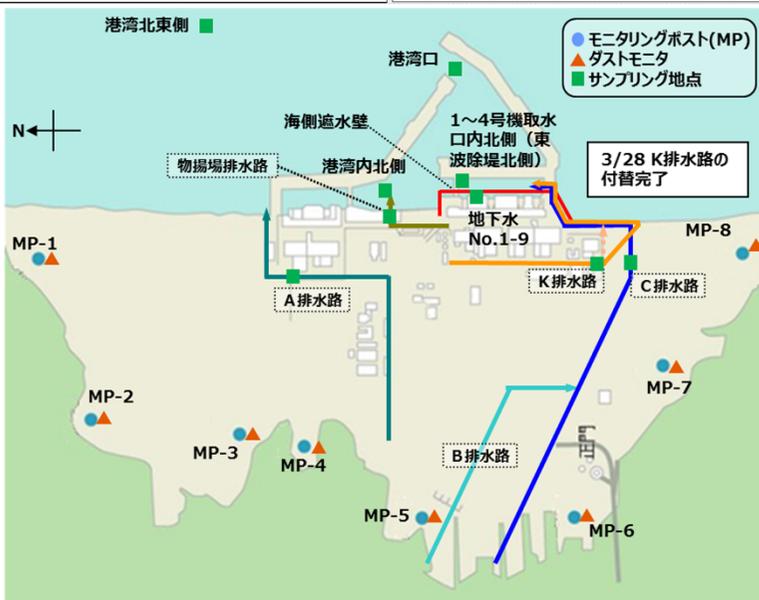
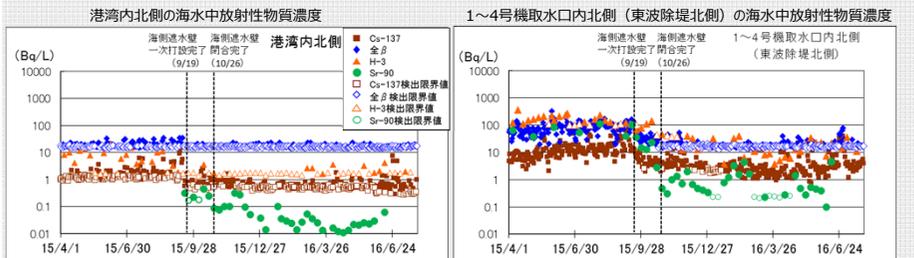
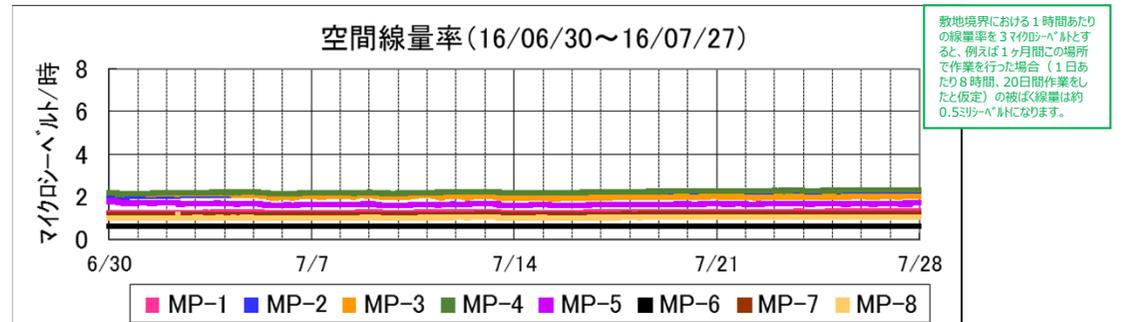
- K排水路では、降雨時に濃度上昇が見られるものの、昨年のような大きな上昇ではない状況。
- セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

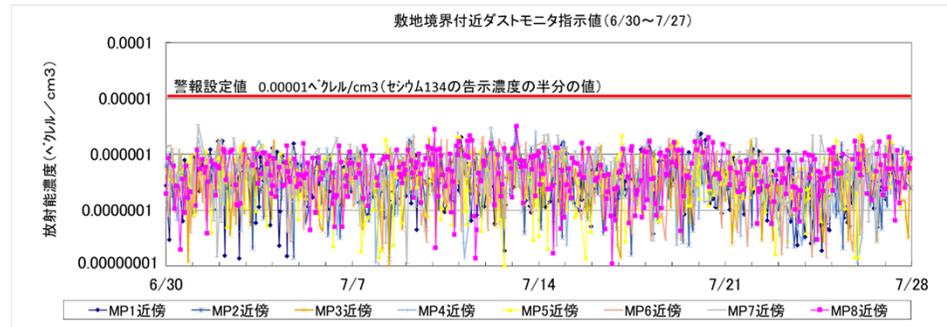
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

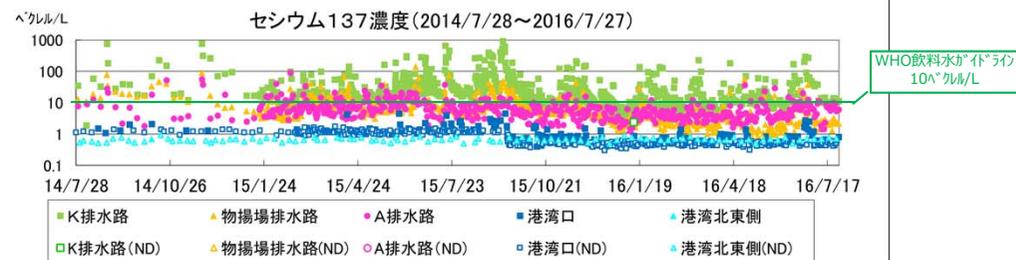
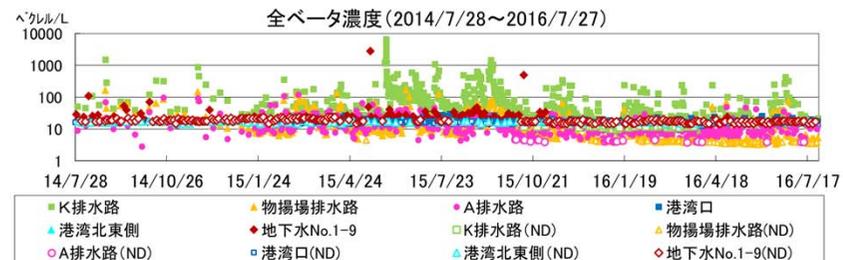


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

A 水（海水、排水路、地下水等）

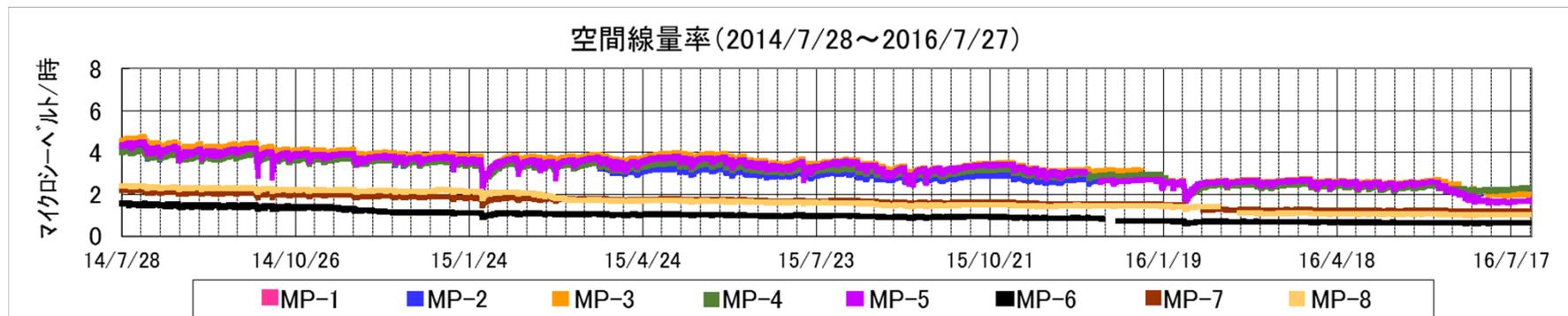
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。

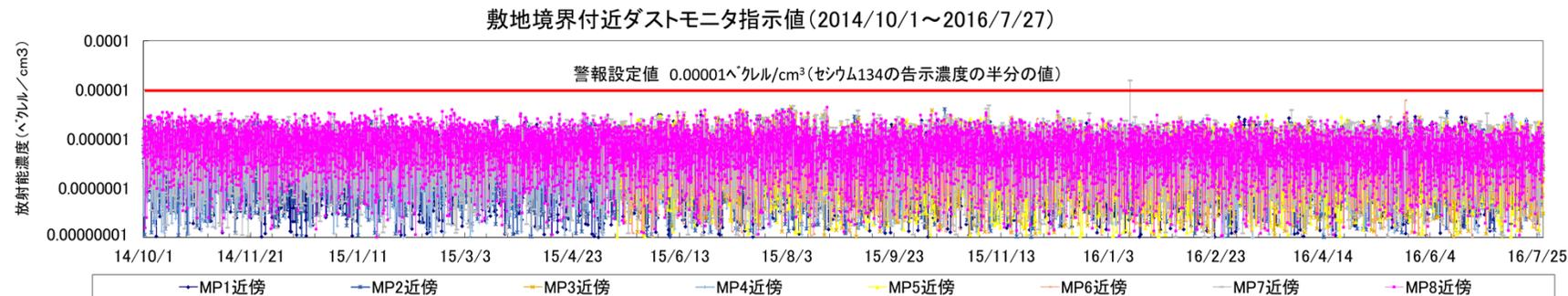
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



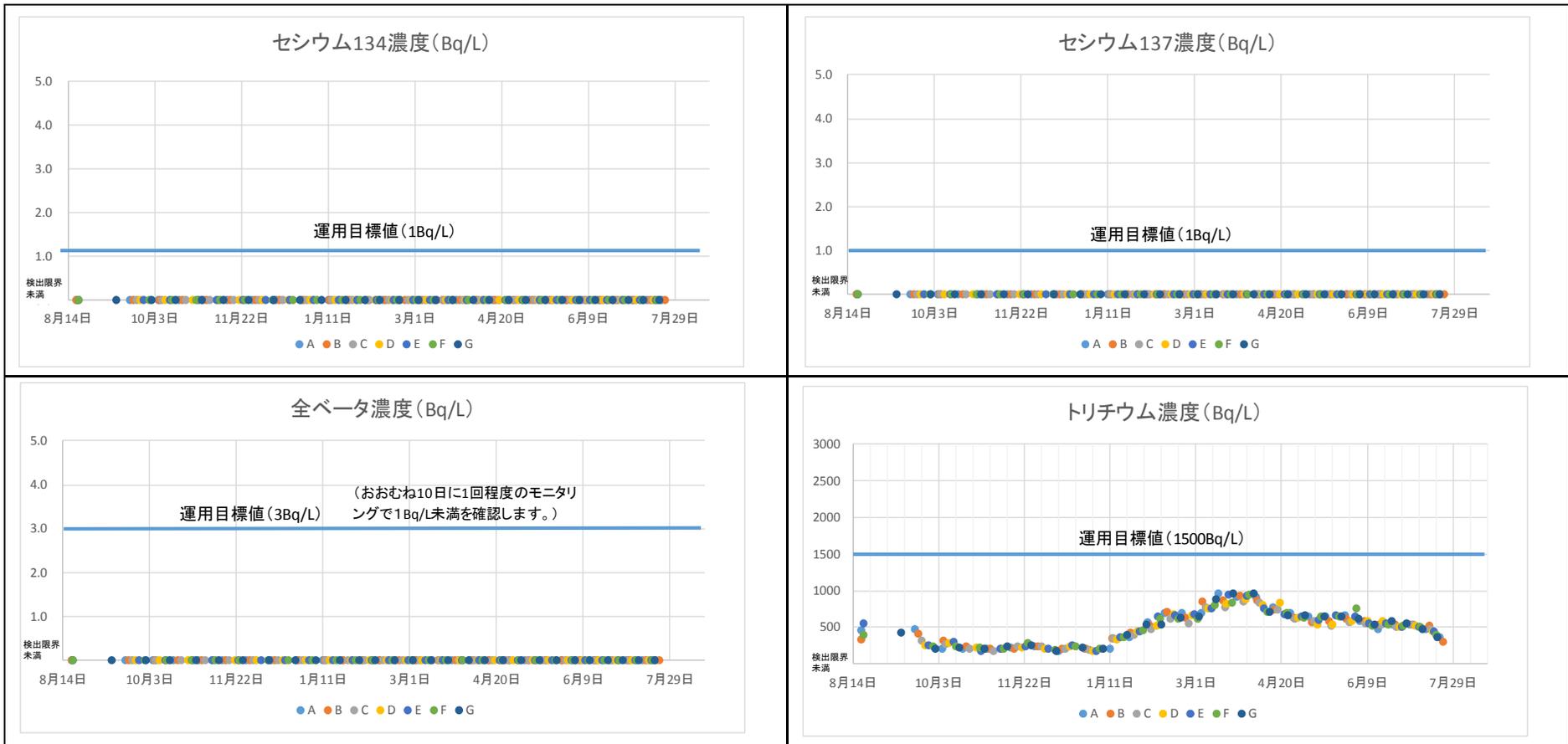
・MP1,2,4,7,8近傍は2014年10月1日、MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2016年7月26日までに合計194回、157,330m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

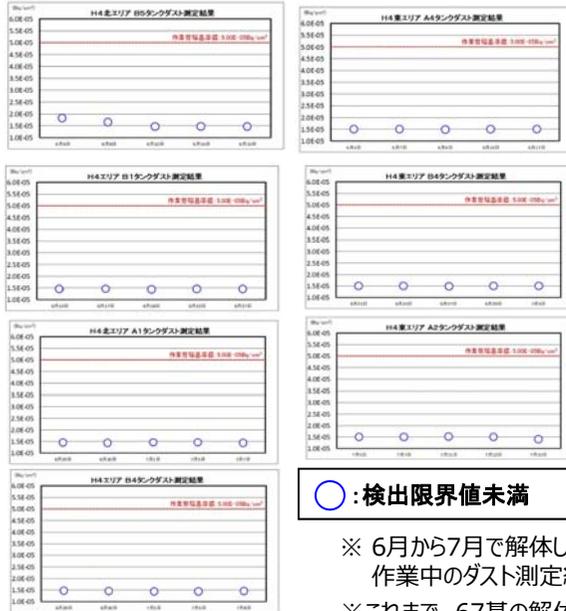
タンク解体におけるダスト抑制対策について

2015年5月から福島第一原子力発電所構内にあるフランジタンクの解体を開始しました。解体には、徹底したダスト飛散防止対策を実施しており、これまでのところ、作業現場近傍でのダストの警報は発生しておりません。引き続き、地元の皆様にご心配をおかけしないよう発電所構内のリスク低減を図ってまいります。

ダスト飛散防止対策

- タンク内面への散水
 - ・作業前にタンク内面に散水を実施。
- タンク内部の空気の吸引
 - ・タンク底部のマンホールに局所排風機を設置し、タンク内部の放射性物質を回収して、放射性物質濃度を下げながら作業を実施。
- タンク内面に被覆（塗装）
 - ・解体作業前にタンク内面に被覆（塗装）し、ダストの飛散を抑制
- 屋内設備でのタンク切断
 - ・管理された屋内にてタンクを切断。屋内設備に局所排風機を設置し、ダストの発生を抑えながら作業を実施。

タンク解体中のダスト測定結果



※ 6月から7月で解体したタンク(7基)における作業中のダスト測定結果

※これまで、67基の解体が完了しており、29基が解体着手中であるが、ダストの測定値は、すべて検出限界値未満

タンク解体現場の様子

＜タンク解体現場全景＞



＜屋内でのタンク切断の様子＞



＜タンク内に散水する様子①＞



＜タンク内に散水する様子②＞



＜タンク内を塗装する様子＞



タンクエリア	解体完了
H 1 東	12/12
H 2	28/28
H 4	27/56

2016年7月21日時点